

田中研新聞

第7号

2014年
3月1日発行

2014年3月1日号
甲南大学知能情報学部田中雅博研究室
毎月発行
http://canrination.is.konan-u.ac.jp
編集長：大畔 裕 (M1)

卒研究発表会無事終了



今年度は、2月14日に卒業研究の発表会があった。当日はまれにも想像されたが、発表に影響した学生はなく、安心した。

今年度は論文の初稿を12月として、直前にばたばたせず、十分な論文内容を深めることができたようにと考えていたが、結局は例年通り、発表会直前によく論文が仕上がった学生が多数あり、私の目論みが十分伝わっていなかったことは残念であった。発表練習については、私が見るのを敢えて本番の2日前とし、

それまでに学生同士で十分な準備をするように指示した。こちらの目論みについては功を奏し、私が1回開いたときには発表時間、発表方法について既に完成の域に達しており、来年度からの参考になった。

当研究室の発表については、和田先生が司会であり、KOR研究会などで既に研究内容を見てもらっていたものが多かったので、スムーズに進んだ。7分を大きく超えるものもなく、発表は堂々としており、原稿を手に持っている学生も少なく、まずまず満足できるものだった。内容的には学生の卒論発表として決して高レベルのものとはいえないが、他の研究室の発表と比較すれば、かなり準備ができていたほうであった。

なお、卒論のタイトルは田中のホームページに記載している。論文は外部の方には基本的には非公開であるが、要望がある場合はフ

イルを渡すので、リクエストをしていただきたい。また、可能なものについては、今後研究を継続したり、学会発表を行うものもあるかもしれない。さらに、当研究室の学生には、卒業式の日に卒論CDを配布するべく、準備中である。

本来、研究はここから始まるものである。このレベルの発表会を10月頃に行い、その後、研究を深めることができればそれぞれの研究を社会に出せるものになる。来年度は是非そういう形を目指したいと思っている。(田中雅博)

15年卒の就活が解禁されてから3ヶ月が経ち、多くの企業が個別の説明会を開始した。私は現在修士1年なので、3回生同様就活生であり、これからの人生で後悔しないように積極的に活動しているところである。少しでも興味を持った企業は欠かさずエントリーしている。参加した説明会は2月末時点で23社にまで増えた。企業によってはすでに面接も始まっているところがあり、結果連絡ラッシュで胃が痛くなるのも時間の問題かもしれない。ちなみに私は説明会、グループワーク、個人面接と3回も名古屋に行ったところにお祈りメールを頂いたところである。面接はそんな

私のコンピュータ体験史

第5回 岡山大学時代

IIASAから帰ってきた次の年度(平成2年度)から岡山大学工学部情報工学科に助教として赴任した。研究室名は「計画情報工学研究室」で、最適化の研究を行う谷野教授(現在大阪大学)、途中から若佐助手(現在山口大学准教授)と一緒に学生の指導と研究を行った。谷野教授は最適化の理論的研究者であり、私も、赴任早々、シンプレクス法のプログラミング実験などを担当することを要請された。この研究室に在る間に、ニューラルネットワーク、遺伝的アルゴリズム、フuzzy理論などを覚えた。ソフトウェアエンジニアリングの専門家を目指した。また、その期間中に何冊か専門書を執筆した。

当時、研究室のコンピュータといえば、UNIXワークステーション、Macintosh、IBM互換機というものが置かれていた。IBM互換機ではMS-DOSが動き、その上でいろいろなソフトが動くようになってきた。わたしは、EPSONのパソコンをよく使っていたよう

に記憶している。インターネットは赴任当時からつながっていた。所属学科では情報工学科のプライトがあるのか、メールサーバーはそれぞれの研究室内で立てることになっており、学生が使うコンピュータも、ファイルサーバーを研究室の中に設置、研究室で教台あったワークステーションやX端末のどれにログインしても使えるようにしなければならなかった。要するに、研究室ごとに情報センターの管理するネットワークシステムのようなLANを持つていた。研究室の学生ごとにコンピュータあるいはX端末はあったが、使うソフトは限定されていた。プログラミングは、Emacsを使って、C言語でプログラムを作るというスタイルが基本であった。LateXは当時からあり、卒

論などの技術文書を作るのはLateX以外には考えられなかった。論文以外の一般的な文書を作るのに、今ならWordがほぼデフォルトだが、当時はNECのパソコンで主流だった一太郎を使う人が結構多かった。ワークステーションではWordも一太郎も使えず、LateXを使って文書を作る人が多かった。

ほとんど、Mosaicというwwwブラウザがネット上で提供された。これにより、インターネットを閲覧する時代が到来したのである。画像を1枚表示するのに、数十秒以上かかっていたのを思い出す。MosaicはNetscapeに置き換わり、当分の間ブラウザのデファクトスタンダードとなった。パソコンは個人ユースのコンピュータとしてその間生きた。Windows95を契機として、研究室においても再び我々の主要なマシンとして復活してくる。ある時期、学生研究室に1台置いていたパソコンが非常によく使われていた。不思議に思い、その理由を学生に聞くと、英語で書かれた専門書の輪読の準備のためにパソコンの搭載するOCRと翻訳ソフトが引張りだだったのである。その後、パソコンをX端末として学生に一人1台使わせていた。いろいろな科学技術計算はまだワークステーションや大型計算機を用いて行っていた。

電子メールは赴任当時から使えたが、「件名」(subject)が文字化けすることが非常に多く、そこに日本語文字を使わないように、強く指導していたことをはつきり覚えている。(次号へ続く)
(田中雅博)

就職本番 BtoB企業って面白い!

だが、なにかダメなところがあったのだろう。落ち込んでいても仕方ないので、切り替えて次の企業の選考に全力を尽くしたい。

私が主に志望しているのは製造業で、組み込みソフトをやりたいと考えている。特にBtoB系は面白く、目的の事業以外の説明で、思わぬところにその企業の製品が使われていること知ることがある。例えば最近行った産業機器メーカーだと、説明の途中でペットボトルを出すよう言われた。キャップ部分に書いている賞味期限を印字するプリンターの殆どをそのメーカーが作っていることだった。ほかにも自動車システムを作っている企業に行ったときは、画像認

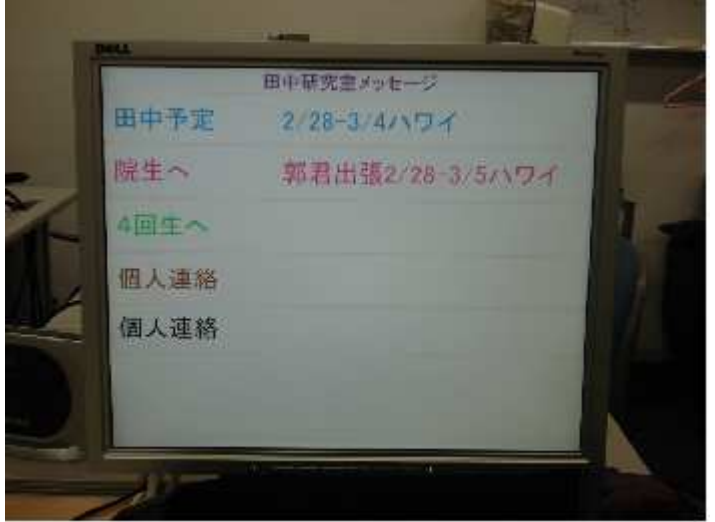
識技術を完成車メーカーに提供して共同開発しているということを知った。最近CMでやっているあの機能はこの企業なしには生まれなかったらしい。このように、普段世話になっていないものの中にはこれまで知らなかった企業の製品や技術がたくさん詰め込まれている。何気なく使っているものに對して、「これはどこの企業が作ったんだろう」と思い調べていけば、今まで知らなかった企業との出会いがあるかもしれない。

私が企業を選ぶ基準は、一般の認知度が高いことよりも世間に与える影響力が大きいことである。自分が関わった製品により、国民のみならず世界中の人々の生活を変えることができるれば痛快だ。忙しい中研究も進めないといけないが、頑張っつてすべて自分の納得がいく形で終えたいと思う。(大畔裕)

研究室の大掃除

いろいろ変更しました

毎年恒例だが、今年も卒業発表会が終わった翌週の2月17日に、研究室の大掃除を行った。埃をかぶった机や汚れた水回りはもちろんのこと、今回は以前から気になっていた、床下の配線の整理を決定することになった。掃除前は、昔の机の配置（机の長辺を南北に並べていた）に合わせて配線しており、今の配置だと、椅子のある場所からケーブルが出ていて引つかかるので、とても邪魔だった。また、LANケーブルが床下をどのように通っているのか、誰にもわからない状態だったので、この際明らかにして整理することになった。床下の様子を複数人で共有して作業するのは面倒だったので、ケーブル整理の作業の多くは私が行った。だがこの作業、かなり体に堪える。床



下を開くためにはコンクリートの蓋を持ち上げなければならぬし、留め具を外すのも少し無理な体勢で行わなければならない。なんとかが整理を終えた頃には完全にくたびれてしまっていた。結果的には前より使いやすい配線になっているはずなので、苦勞した甲斐はあったと思いたい。ほかに3点、変更点がある。1つ目はソファベッドが西の壁際に移動し、北西の島がやや東に移動した。これで通路が通りやすくなったはずだが、とりあえずは様子見である。2つ目はファイルサーバー。これまで長い間、田中研究室ではPioneと名付けられたPCをファイルサーバーとして使用していたのを、昨年に暫定的にKiwi2に変更し、今回さらにKiwi2に変更された。Kiwi2は度々調子が悪いことがあるが、KiwiはUSBポートが壊れている以外は問題がないことから、ファイルサーバーとして使うのに最適だと判断し、変更に至った。3つ目はメッセージを表示できるディスプレイの設置だ。これはKiwiに接続しているディスプレイだが、田中教授からのメッセージを表示する機能も兼ねることとなった。表示内容は、田中教授の部屋から遠隔で書き込めるようになってい



今年は何年か比べて変更点が多く、これまで以上に便利な環境になったのではないかと感じる。長い時間使う部屋だからこそ、改善すべき点はほとんど主張すべきだと私は考えている。これから1年間この部屋を使う新4回生も、研究室ライフをより良くするために、遠慮なく提案して欲しい。（大畔裕）

卒業する4回生より

なんとか全員が卒業研究を終えることができた。これからは進学予定者以外が研究室を去って、それぞれ違う道に進むことになりそうです。そこで、せっかくなので最後に4回生全員に書いてもらうことにしました。（大畔裕）

荒内良太

この1年間はとても長く濃いモノだったと思えます。何度も研究を繰り返して完成度の高いシステムを田中教授やゼミ生の意見を聞いて参考にし作り上げていくのは根気がいる大変なことでした。しかし、自分で考えた動作をシステムに埋め込み、想定通りに動いたときは嬉しくやりのある事だと思えました。田中教授や院生の方々には自身の研究があるなかで、時間をさいて論文の添削していただいた事感謝しています。来年度4回生になる方々は就職活動と卒業研究に追われる日々が続くと思いますが有意義で悔いのない学生生活を過ごして下さい。

藤井陽介

4年生の4月から2月14日まで研究の手助けをしてくれた皆様、色々ありがとうございました。自分の決めた目標に向かってひたすらに試行錯誤を繰り返すのは大学生活4年間のなかで中々なく、新鮮でありました。研究自体は試行錯誤が多く挫折の時もありましたが今思えばいい思い出です。そんな新鮮な1年を振り返り、私しか知らないゼミの思い出を1つ書きます。

藤原竜也

今まで大変有難うございました。次は住宅販売の営業につくため研究室で勉強したことの多くは使わないと思いますが、研究室で学んだ礼儀やマナー、一般常識などはどのような仕事でも使っていくことになると思います。そういったことを学ばせていただいた田中先生には大変感謝をしております。また、これから4回生になり研究をしていく人たちは研究室で学ぶことは勉強だけでは足りないと思います。色々なことを身につけて卒業してください。

山上智大

卒業研究が終わり、4年間の大学生活も終わりに近づいています。研究は他人が見てどう思うかわかりませんが、自分としてはまあまあ出来たかなと思えます。途中、胃潰瘍になり研究が滞った時期がありましたが、何とか完成に持ち込めたことは良かったです。社会人になり仕事をしたいという気持ちは卒業研究以上に強いものであると思いますので、田中研究室で得たものを4月から活かしていきたいと思えます。田中先生、そして研究室の皆さん、ありがとうございます。

山下光大

まず、発表が終わってほっと安心したというかなんか研究室に戻るなり叫んだ覚えがあります。とにかく、長かったですが達成感のようなものが自分なりにあった気がします。思い返すと正直、3回生の時に配属されてプログラミングなどあつてついていけてなくてやっていけない気がしてきました。けど、周りの人に恵まれて何とか頑張って4回生になれた気がしました。4回生になって研究内容はKORプロジェクトに携わる内容となりました。4回生になってもこのままやっていけるやろうかな不安でしかなかったです。でも、進めないことには話にならなくて、やっていけたがまあどうしていいかわかってなかつたです。でもその時に田中先生や院生の方々にアドバイスをいただいていた、なんとか進めていく方向が見えてきたのが前々からアドバイスをいただいていた田中先生からの喝を思い出しています。研究は他人が見てどう思うかわかりませんが、自分としてはまあまあ出来たかなと思えます。途中、胃潰瘍になり研究が滞った時期がありましたが、何とか完成に持ち込めたことは良かったです。社会人になり仕事をしたいという気持ちは卒業研究以上に強いものであると思いますので、田中研究室で得たものを4月から活かしていきたいと思えます。田中先生、そして研究室の皆さん、ありがとうございます。

山本智己

こんにちは。山本です。

田中研究室に入ってもう1年と半年も経つのかと思うと時が過ぎるのはとても早いと感じます。最初はまだまだ時間があるし、なんとかなるとか思いながらダラダラと卒業研究をしていきましたが、後半になると、実験がうまく行かず、ゼミ室に泊まり込んだこともありなりました。そんなことも今となっては良い思い出になっています。このようなことにならないように、今の3回生は早くから計画を立てて、その計画に基づいて自分の卒業研究を行ってほしいです。私みたいにダラダラと過ごしていると後半が悲惨なことになると思います。そんなことはさておき、卒業研究で得たものはたくさんあると思えます。私の中で「自分で考える力」というものを一番身に付けることができたと思っています。卒業研究は先生に与えられた課題を解いていくのではなく、自分で問題を発見し、その問題をどのように解決していくのか自分で考えなければいけません。私の今までの人生において、このような経験はなかったのではないのでしょうか。これから社会人になるにあたり、この経験を活かしていきたいと思えます。田中先生、院生の先輩方、そして同回生のみならず、本当にありがとうございます。

「レッツリ」「ストレイテナー」「東京事変」の曲をコピーしたことは思い出として強く残っています。4回生の就活と卒業研究ですが、就活では様々な会社の社員さんとお話しさせていただく機会が多々あり、これからの将来、どのような人間になりたいのかを考える機会が増えました。卒業研究は成功するためにどのよう努力すればいいのかを、多くの時間をかけて考えさせられ、私の趣味以外でこれほど没頭するものがあるとは思っていませんでした。このような思い出は10年、20年後にいい思い出話のネタになっているでしょう。

研究室対外活動予定

3月1日(2日)・田中教授と郭君、NCS Pで論文発表
3月10日(11日)・ゼミ旅行(福岡)
3月17日・甲南・鹿児島大学合同ロボット・コンピュータビジョン研究会で、田中教授が基調講演
3月25日・卒業式

編集後記

今年度も残すところ1ヶ月となりました。現4回生がゼミ配属されて顔合わせをしたときは「やべえ、なんかアクティブっぽい連中が入ってきたぞ。うまくやっていけるかな。」というのを考えていました。あのときのことなんてすっかり忘れていましたが、ふと思いついてとても懐かしさを感じています。今回は先生と郭さんの学会発表や卒業式について取り上げます。他に記事を書いてくださる方は、随時募集していますのでよろしくお願ひします。（大畔裕）

吉岡一樹

大学生活を終えるにあたって1〜3回生の間は軽音楽部の活動、4回生は就活と卒業研究が思い出しにくい感じがします。ありがとうございました！